

# 第104回町史編集委員会 会議録

日時 平成21年3月13日(金)午後3時  
場所 寒川総合図書館 会議室  
出席 圭室、木村、鳥養、内海委員  
小俣文書館長 高木  
傍聴 なし

## 委員長あいさつ

## 議 題

### (1)平成20年度刊行物について

- 町史研究20号の編集状況について説明した。これに対する質疑や意見は、特に出なかった。
- 文書館日より第5号の入稿原稿を配布し、進捗状況を説明した。表紙および2ページ目は、前回の案では平塚市博物館所蔵の一之宮村関係文書の紹介としていたが、慎重にとの意見があったため、旗本杉浦氏の関連文書に差し替えた経緯を説明し、了承された。

### (2)平成21年度刊行物について

- 町史研究第23号の構成のうち、特集記事は「花川用水と相模川左岸用水」(仮題)とすることで了承された。核になる記事は、花川に関する町史講座(講師候補は馬場弘臣氏)とし、関連文書を翻刻する方向で検討することになった。
- 海老名市史跡ボランティアガイドの金子・田中氏から投稿された原稿の取り扱いについて協議した。一般論として、町民参加の観点から、投稿を閉め出すのは良くないが、かといってどのような内容でもOKというわけにもいかない。そこで、審査が必要になるが、投稿規定や査読のルールを明確にしておく必要がある。次回の委員会までに事務局でたたき台をつくり、その上で審査し、本人に通知するという流れにすることになった。
- 調査報告書17集については、編集の進め方は原案通りで問題なし。ただし、浜降祭日誌を掲載する範囲については、事務局案では、元の史料の簿冊の単位である昭和5年から14年としていたが、これを昭和20年まで掲載できれば使いやすくなるのではないかとの意見が出た。原稿のボリュームの問題もあるので、様子を見ながら検討していくことになった。

### (3)平成21年度の普及事業について

- 町史講座は、東海大学の馬場弘臣氏に近世の花川用水のことをお話いただくことを第一候補とし、交渉することになった。開催時期は11月上旬とする。
- 資料保存講演会は毎年3月に実施しているが、特にこの時期にこだわらなくても良いのではないか。町史講座と同じ日に時間をずらして行うのもひとつのアイデアである、との意見があった。
- 第7回企画展は「村制120周年記念 寒川村ができたころ」で了承。
- 第8回企画展の候補としてつぎのようなものが挙げられた。
  - ・寒川の工業化もしくは自動車産業の歴史（特にくろがね）  
工業協会などとタイアップし、工場見学会などを実施して集客をはかる。
  - ・特色のある農産物
  - ・浜降祭、相模線なども町民が大いに関心をもっているテーマではないか。いずれにせよ、展示だけでなく、たとえば工業化をテーマにするなら、工場見学会を行うなど、関連イベントを考えて、展示の内容に、ひいては文書館の活動に興味を持ってもらう人を増やすことが必要である。

### (4)その他

- 3月末で現在の委員の任期が切れるが、再び委嘱したい旨を伝えた。
- 内海委員より、3月7日付「日本経済新聞」文化欄の記事「公文書管理体制固まる」が配布された。これに関連して事務局より、今国会に提出された公文書管理法案の概要を説明した。この記事を書いた日経新聞編集委員の松岡資明氏を資料保存活用講演会に招いてはとの意見も出た。